

京手連

第103号

2022年3月

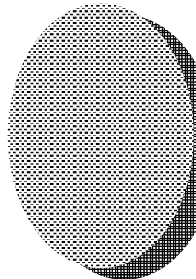
発行
京都府手話サークル連絡会



目次

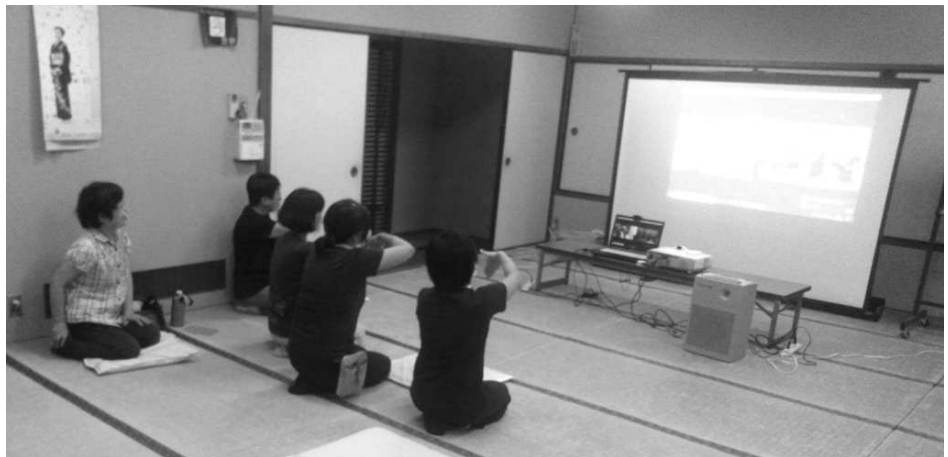
- コロナ禍 私たちのサークルは、今 ④
- オンラインで例会や手話実技指導
加悦(与謝) 1
- サークル活動の形を模索
伏水 2
- 二酸化炭素濃度測定装置など安心な環境を整えて
京田辺ひよこ 3
- お楽しみ会
みみずく山科屋 4
- オンライン学習会 5

コロナ禍 私たちのサークルは、今 ④



オンラインで 例会や手話実技学習 加悦手話サークル(与謝手話サークルよつば)

加悦(かや)手話サークルでは、なかなか収束しないコロナ禍でも、聴覚障害者とお話したい、手話を学びたいとの会員の思いを受け止め、令和2年8月に初めて加悦地域公民館と府難協北部ブロック長の岡本さん宅をZoomで結び、リモートでのオンライン学習をしました。



令和3年4月から12月までの間は2回にわたる緊急事態宣言が発令され、例会開催も数少なくなった中、岡本さん宅とZoomで結び、手話学習だけでなく難聴者の暮らしについても学習しました。また、岩滝地域の聴覚障害者2名が参加してくださり、輪になり手話でお話しをして、お互いに情報交換が出来る学習会となりました。

今年1月からは大雪やまん延防止発令で例会もお休みにしていますが、2月3日にZoom可能な会員4名で自宅から手話学習をしました。

加悦手話サークル会員の中で、京都府登録の手話通訳者3名がそれぞれの自宅から月1回、手話実技実習に参加して、京都府聴覚障害者協会丹後支部の宮下さん宅や岡本さん宅などをZoomで結

び指導を受けています。また他にも、Zoom可能な会員も参加しています。

外出自粛の中、自宅から学習参加出来ることは遠距離の人とも話せるし、雪の影響も受けないというメリットがあります。一方でネット環境の問題があり、今後の検討課題と感じています。

昨年は、前田弘美さん、藤原隆さん、太田千鶴子さん、上辻武雄さんがお亡くな

りになられ、私たちも悲しみでいっぱいでした。特にコロナ禍での生活となつてからは、お会いすることもできず永久のお別れとなりました。みなさんの優しい笑顔と手の温もりが忘れられません。みなさんからご指導いただいた手話表現一つ一つをこれからも大事に、そして自信を持って使い続けて行きたいと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(今田)

※原稿時点は、2月です

サークル活動の形を模索 ～手作りのフェイスシールドも

手話サークル「伏水」



緊急事態宣言時、伏水サークルの活動拠点である区役所の会議室は使用不可となり、サークルは休止となりました。緊急事態宣言からまん延防止等重点措置に移り、区役所の施設も利用可能になりました。

サークル活動を再開するにあたり、新しい行動様式をふまえたサークル活動のあり方を検討し、隔週・時短で活動することにしました。消毒液の設置や椅子の間隔等、手探りでの再開でした。

サークル員の中にはまだまだ不安で出てこれなかったり、同居する家族に気兼ねし

てサークル活動はまだ無理だ等という方もいました。でも、久しぶりのサークルで楽しそうにされているのを見て、対面でおしゃべりすることの必要性を感じました。

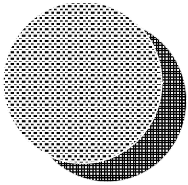
皆でフェイスシールドを手作りし、コロナ関連の情報共有をしました。

その後、現在また何度目かのまん延防止等重点措置中です。COVID保-19が世界で流行してから3年目になります。マスク着用率もワクチン接種率も高い水準である日本でも、感染者の増減に確かなエビデンスがないままの現在です。日々変化する政府の対応に戸惑っています。

今回の措置で、手話サークル「伏水」は時短での活動は行わず、休止することにしました。

今後、以前のような日常には戻れなくともサークル活動を続けていくにはどんな形が良いのか模索する日々です。(岩崎)

※原稿時点は1月です



二酸化炭素濃度測定装置など 安心な環境を整えて

京田辺手話サークルひよこ



昨年はコロナ禍で5月、8月、9月と休会になりました。各部長グループのLINEにて、ひよこサークルの情報や京手連からのお知らせ、関連行事の情報を共有出来たのではと思います。

例会では、感染防止のために、広い部屋を利用し、ひよこサークル専用の二酸化炭素濃度測定器で、良好な換気状態を保持。体温計（非接触型）と消毒液で安全性が確保され、手話を学べる環境を整えています。

年末に透明マスク（ルカミー）を配布し、ソーシャルディスタンスを心掛けクリスマス会を開催しました。学習部が工夫を凝らして、グループごとに手話を使わずジェスチャーだけで童話の題名を当てるコーナーを企画。個人の演技力が素晴らしく、皆さん笑顔がたえず、楽しみました。手話コーラス部もクリスマスソングを披露され、手話を真似て手を動かし、サークルの仲間の良さを改めて実感

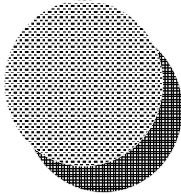
しました。

過日、京田辺市身体障害者協会から「感謝状」をいただきました。長年、ボランティアとして献身的な活動され、先輩達を誇りに思います。私達も志しを続けて行きたいと考えています。

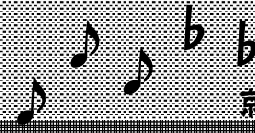
今年1月に同志社大学ボランティア支援室学生の方から、ボランティアの普及と学生と地域の関係づくりを目的にひよこサークル活動を紹介して欲しいと連絡がありました。サークルは高齢化が進んでいますから、若い方にも参加していただきたいと思います。少し期待しています。

新年会も予定していますので、コロナの消息を願うばかりです。（岡本）

※原稿時点は1月です



お楽しみ会



京都市手話学習会みみずく 山科支部員の部



「みみずく山科支部員の部」のサークル員は今年度43名で、山科身体障害者会館をお借りして活動しています。コロナ禍にもかかわらずサークル員が増えています。

密を避けるためには、時間を分けて二部制でサークル活動を実施する以外になさそうです。2つに分けたからといって、さしたる問題はないように思われますが、実はそうではありません。サークル員同士のちょっとしたおしゃべりが、情報交換やストレス解消にとって大事なことがわかります。

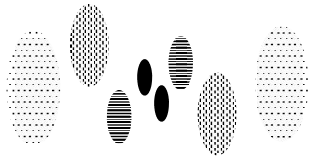
かといって、廊下で長々とおしゃべりをして、他の利用者から「静かになさってください」などといわれては万事休す。

おしゃべりが漏れないような装置を備えているところが望ましい。広くて防音装置があり、舞台装置があって、椅子の座り心地もよい。そんなところを準備委員会で見つけてくださいました。全員が交流できるように、広い醍醐交流会館をお借りして交流会を実施しました。

参加者は、ろう者・聴者合わせて39名。出し物は、準備に気合の入った手話劇、手話落語、手話歌や歌の題名を当てるクイズ、もっと聴いていたかったコーラス、ろう者の体験談、手話による民話など10近いプログラムを午後いっぱい楽しみました。全員が何らかの役割を持って参加したことになります。(菊澤)

※原稿時点は1月です





オンライン学習会

～京手連・府聴障協 両会長対談～

12月22日(水)

18:30～20:00

12月22日(水)夜、当連絡会のオンライン学習会第2弾を開催しました。京都市聴覚言語障害センターの研修室をメイン会場に府内41カ所とZoomをつなぎ、約60名が参加。京都府聴覚障害者協会・浅井会長にお越しいただき、1回目学習会(11月7日)を受けて、4つのサークル・地域の取り組みを振り返りながら、コロナ禍でのサークルに期待することなど、当連絡会・永濱会長と対談しました。

浅井会長からは、コロナワクチンの接種の際の情報保障を協会として府に要望した、盲ろう者の通訳介助に対応できていないこと、若いうちあ者はIT技術を駆使して上手にしているが、高齢の方は使いこなせず外に出にくくなっていることも多いなど、具体的な様子を紹介いただきました。

さらに、手話サークルにろうあ者の参加が少ない、手話講座の受講がサークル加入につながっていないことも指摘。サークルは誰のものかを今一度考えることが大切必要があるのではないか、などとも示唆され、有意義な学習会となりました。

サークル指針を思い起こし 「交流」から寄り添いへ



浅井ひとみ会長と永濱治夫会長との対談でした。私が所属している手話サークルでもコロナ禍中でサークルを開催しづらくなっています。近年多発する災害への対応を鑑みる必要を感じつつも、実際に起こったコロナの状況下で**何一つ出来ずにいる**…。

そんな中で改めて**地域手話サークルの役割を考える大事な対談**だったように感じます。

浅井会長からは初心に帰らせていただくような言葉が多くありました。全日本ろうあ連盟は「手話サークルに関する指針」を示されていて、ずいぶん以前に読んだ記憶があります。「サークル＝交流の場というだけではなく、自主的で多様性を持ちつつもろうあ団体との協調関係で成り立つ。地元地域にある〇〇サークルとは少々違って、社会的に何某かの責任や役割を負う。」ということにびっくりし、また印象にも残り、重要性も認識したことです。

浅井会長の発言を大事に摂取し、手話技術の学びは潜在意識に持ちながらも、**交流という域を超えて寄り添い**つつサークル生活を送りたい…と思った次第です。(でんでん虫・増山)



伝える手段は 一つではない



今回Zoomでの学習会、初めて参加ですが、大きなスクリーンに会場が映し出され、会談の様子が伝わり一体感が感じられました。

学習会に参加して学んだことが2つあります。

一つ目は、**伝える手段は「一つではない」ということ**。手話、筆談、手振り、身振り等、わかろうという気持ち、伝えようという気持ち。

二つ目は、「**続ける**」こと。声を掛ける、話をする等、常に向き合うことが大切だと思いました。またこのことは社会福祉に大切だと改めて感じました。

また機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。(舞鶴・安宅)

高齢化の問題に共感



オンラインという形の学習会を初めて経験させてもらいました。一緒に参加されている方々の思いとか反応とかが、画面に表示されるのもすてきなことです。アナログな私にはびっくりなことばかりです。

地域の様子を聞いていると、**コロナ禍と高齢化は、現在避けては通れない問題**としてとらえることができます。

コロナが収束すれば、行事の開催も望めます。もうしばらくの「がまん」です。高齢化はどこの地域も、課題としてあります。若い人にも、関わってもらえるといいなと思っています。高齢になるということは目の前にあることなので。

浅井さんの活動はすばらしいですね。**一人一人に関わって、話をして、行動をうながせる。**こんな行動が出来る人が増えていかなければいけないですね。勇気をもって人と関わる様に努力していきたいと思う私です。

ありがとうございました。(舞鶴・木ノ下)

浅井さんの 孤立させない行動力



いつもより仕事が早く終わる。(やった！間に合う！) 電車を乗り継ぎ早足で会場へ到着。人が少ない。関係者だけ。そうかみんなZoom参加なのか…。さすがオンライン学習会。

永濱会長の切々とした質問。「私はサークルに行っていない。」と正直で、かつ、ろう者の気持ちを率直に述べられる浅井会長。協会、サークルとも会員数の減少や若い人の参加が少ないなど普遍的な課題に加え、コロナ禍で活動や交流の機会が減っていく現在の課題。

一番印象深かったのが浅井会長が**「声をかけて断られても、そこでつながりは切らず、また声をかけて決して孤立させない。」**という姿勢。

私自身、30数年前に数年サークルに通っていて、生活のパターンで参加しにくい時期を経て、また誘われてサークルに戻ってきた。それぞれの生活があつてのサークル。手話を学びたい理由も、目標も**個々さまざまにあつてもサークルの存在がありがたい。こんな時期だからこそ工夫してつながれる大切さ。**オンライン学習会しかり。

声をかけ合おう。つながろう。「サークル」だもの。(伏水・森田)

不安は同じ 格差はなくそう



サークルの会長から「誰か、Zoomのできる人がいたら」と言われ、最初は私もやったことないしなあ、と思ってました。でも学習会第一弾をスルーし、今度の第二弾のお知らせ。「聞こえない方の本音を聞こう！」のタイトルに心ひかれ、これはぜひ聞きたい。主人に頼み、プロジェクターのつなぎ方、Zoomの見方を教えてもらい、参加することができました。

各地域からの報告を聞き、特に高齢化による問題は私たち舞鶴にも当てはまると思いました。

高齢になって、サークルに参加することが難しくなっても、それで関係を終わらせるのではなく、訪問して気にかける。特に一人暮らしの高齢者は一人ぼっちにしないことが大事など、本当にその通りだと思いました。

また、コロナ禍でサークル活動も制約され、それによって会員が減少していること、PCできる人とできない人との格差ができていくこと。

それから、地域包括支援センターに手話通訳者がいて欲しい、など切実な問題もありました。介護が必要な方に職員が対応して欲しい。デイサービスに行っても、**周りは聞こえる人ばかりで面白くない、**などすぐにでも対応して欲しいことばかりです。

私たちは、同じように歳をとり、年齢を重ねていく、その不安に、聞こえる人とそうでない人との**格差があつてはいけない**と思います。

この学習会をより多くの人にきいてもらいたい。PCの苦手な人も諦めず、きっと周りの誰かに助けてもらったら、出来るはずです。地域で頑張るのも良いですが、広い視野で話を聞くと、もっと理解が深まるし、今、何が必要なのかも、見えてくると思います。(舞鶴・河田)